

中世木モニタリング調査報告 4月

日時：2021年4月16日（金）

場所：南丹市日吉町中世木地区

天気：晴れ

参加者：8人＋主宰 前田敦子



トウダイグサ

中世木に着いてまず驚いたのは、家の横の空き地にトウダイグサが普通にそれもとたくさん生えていたことです。『トウダイグサ』というと、科名でトウダイグサ科があり、その文字はよく目



イチリンソウ

にするのですが、植物園でしか見られない珍しいものだと勝手に思い込んでいました。それが家の横に普通に生えているなんて衝撃でした。今回はモニタリング以外での驚きもありました。しかし、それはまたのちほどにして、まずは本題のモニタリングの報告を行います。

畑に向かう途中の川沿いに白い花のイチリンソウがたくさん咲いていました。畑でもイチリンソウがところどころで花を咲かせていましたが、一番目立ったのはオオイヌ

ノフグリの青い花の方で、小さな花ですがあたり一面を占領して咲いているのでとてもきれいでした。そばにはタチイヌノフグリもさらに小さな青い花を咲かせていました。黄色の花はウマノアシガタやキツネノボタン。ピンク色はカキドオシやレンゲ、そしてホトケノザです。葉だけが青々とよく伸びているのはヤブカンゾウとツルボ、そしてホタルブクロです。センニンソウ



アケビ



ウバユリ

を出しています。6年かけて花を咲かせます。花の時期に茎葉が枯れてなかったところから『姥（うば）』の『歯（葉）がない』にかけて名付けられたそうです。切り立った斜面にはたくさんのセンボンヤリが白い花を咲かせていました。センボンヤリの花を初めて見ました。センボンヤリの頭花は春型と秋型の2つがあり、春型の花茎は5cm～15cmほどで花弁の表が白く裏が薄紫のタンポポのような花を咲かせます。秋型の花は閉鎖花で花

とボタンヅル、それにアケビはどんどんツルを伸ばしています。その中でも、去年おいしく実をいただいたアケビはいち早く大きな雌花と雄花をつけています。あと、3月のときに可憐に咲いていたアマナが実をつけていました。

次に、山の麓を見ていきます。新葉を広げ始めた時期でダンコウバイ、クマノミズキ、クリ、カスミザクラ、カマツカ、アブラチャンなどの木が見られました。



が咲かない状態が槍のように見え林立するところから「千本槍」となづけられました。春型の花からは想像が付きません。



カキドオシ

ばい。先を行く人が踏みつけていくとスキッとした香りがまわりにあふれてきました。成長速度が速く、隣との垣根を勢いよく越えて伸びてくるその姿から『垣通し(かきどおし)』と名付けられました。若葉は食用にできます。

すぐそばには長い花茎に不思議な形の花を咲かせるチャルメルソウがありました。文字通り屋台のラーメン屋さんが吹くラッパに似た楽器チャルメラに似ているところから名前が付けました。赤紫色の花弁が3〜5裂しています。

川沿いには、アブラチャン、バイカウツギが新緑の葉を広げ、その下には、ゼンマイ、ウワバミソウがありました。土手を上



チャルメルソウ

がり山道に戻ると、そこにはアケボノソウの大きな葉が見られます。この場所は、秋になるとアケボノソウのかわいらしい花であふれます。今からとても楽しみです。

山道にはほかにも、ヤマブキの一重の黄色い花、アオマムシグサの緑色の花のほか、キブシが数珠つなぎになった黄色い花を枝からたくさんぶら下げていました。マツカゼソウの独特の丸い葉、ナガバモミジイチゴの葉、ミミナグサ、ノミノフスマ、サワハコベなどが白い花を咲かせていました。



アオマムシグサ

モニタリングの最後の場所が滝になりますが、その滝の横にはイワタバコがところどころに葉を広げ始めています。今年は近くまで行って花を観察したいです。下りの帰り道、アマガエルを見つけました。茶色の落ち葉のところに緑色はよく目立ちます。色がすぐ変化しないと天敵に見つかる可能性が高くなります。ニホンアマガエルの体色変化は研究者によると非常に個体差が大きく、10分程度で色が変わり始める個体もいるそうですが、はっきりと変色するために要する時間は30〜40分必要なのだそうです。もちろん、なかなか変色しないものもいるようで、その場合は天敵に見つかる前に物陰に隠れて色の変化を待つのでしょうか。



ニホンアマガエル

昼食場所の近くには、華やかなピンク色の花が咲いています。葉から見てアメリカフウロのようですが、花が一回り大きく見応えがあります。ヨーロッパ原産のヤワゲフウロという最近増えている種だそうです。

昼食後の観察会では、畑から中世木川の上流方向（東）へ進んでいきました。まず、ジャケツイバラの大きな実が目につきました。カツラの新葉を見ながら進むと、山手側に紫色のトキワイカリソウの花がモニタリングの場所よりもはるかに多く咲き



トキワイカリソウ

乱れていました。花が集まってたくさん咲いているところはとても豪華に見えます。イカリソウは全草を天日干しにして「淫羊藿（いんようかく）」という精力剤の生薬として利用されています。

カナクギノキやクロモジが黄色い花を、タチツボスミレやナガバタツボスミレが紫色の花を咲かせている道をどんどん進んでいきます。



さらに道を東に進んでいくと、春に見られる黄緑色い花が目にとまりました。シュンランです。ラン科の花で、すっと立ち上がった茎の頭に黄緑色の花弁を3方向に伸ばし、中心にず

い柱、その斜め上に花弁、下には大きな唇弁（しんべん）があります。漢字では『春蘭』とかきます。四君子のひとつとして古くから親しまれてきた花です。

モニタリング後の東行によって、普段見られないものを見つけることができました。予定では、ホタルカズラも見つかるはずだったそうですが、時期が少し早すぎたよう

でした。しかし、そのホタルカズラが日当たりの良い民家の庭先では咲いているということで連れて行ってもらうと、ホタルカズラは数輪などではなく、あたり一面に多くの鮮やかな水色、青色、青紫色、紫色の花を咲かせていました。このホタルカズラを見ることができたことが二つ目の大きな驚きになりました。

細川 幾由



ヤワゲフウロ



ギンレイカ



ホタルカズラ